

私立大学研究ブランディング事業

2017(平成29)年度の進捗状況

学校法人番号	131102	学校法人名	自治医科大学		
大学名	自治医科大学				
事業名	実践的抗加齢医学の開発と普及:健康寿命の延長を目指して				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	1158人
参画組織	自治医科大学 抗加齢医学研究部、炎症・免疫研究部、幹細胞制御研究部、分子病態研究部、神経脳生理学部門、循環器内科、腎臓内科、臨床栄養部				
事業概要	人口の高齢化が進む中、本学の使命である「地域住民の医療・福祉の増進」に貢献するため、本事業では「実践的抗加齢医学の創出と普及」を目指す。「老化を加速する因子」に対して食事や運動、ドラッグ・リポジショニングで介入する個別化医療を創出し、独自の地域医療ネットワークで全国に普及する。効果を地域医療ビッグデータに登録・分析して改善を加え、日常医療で実施可能な形に最適化し、本学のブランドとして確立する。				
①事業目的	<p>本事業では、以下の2つの特徴を持つ独自の抗加齢医学の創出とその普及に挑戦し、本学のブランドとして打ち出すことを目的とする。</p> <p>① 個別化された抗加齢医学:「老化を加速する因子」を各地域・各個人ごとに評価する方法を確立し、主要な老化加速因子に対して各地域・各個人の実情に沿った方法で介入する個別化医療を提供する。</p> <p>② 地域医療で実践できる抗加齢医学:治療的介入は、医療に恵まれない地域でも実施可能な食事、運動、薬物療法を主体とする。食事療法は、これまで考慮されることがなかった食品添加物や、食材毎の栄養素の吸収率なども計算に入れた新しい方法を目指す。運動療法は、各地域でのフレイル予防の取り組みを活用し、食事療法と組み合わせることで老化抑制効果を最大化する新プログラムを開発する。薬物療法は、ドラッグ・リポジショニングで対応可能なものを優先し、臨床応用へのロードマップの大幅な短縮を目指す。</p>				
②2017年度の実施目標及び実施計画	<p>① 新規に購入する研究装置および研究設備を設置し、既存の機器と連携させ、それぞれ「ナノ粒子解析システム」および「形態・成分解析システム」として有機的に機能するように学内運営体制を整える。</p> <p>② 自治医大とその地域医療ネットワークや地域医療振興協会のリソースを活用して実施できる臨床研究のプロトコルを作成する。</p> <p>③ 自治医大ホームページ内に、ブランディング事業の内容を発信するための特設Webサイトを開設する。</p> <p>④ 慢性腎臓病の食事療法のための食品や弁当を販売している企業と共同で、「自治医大ブランド」の製品開発について交渉する。</p>				
③2017年度の事業成果	<p>① 研究設備・研究施設の設置・稼働させ、現存機器との有機的な連携をアレンジした。実際にX線小角散乱装置を稼働させ、老化を加速する原因物質のひとつであるCPPというコロイド粒子の解析を行なった。</p> <p>② 筑波大学と共同研究体制を確立し、運動療法が腎臓の老化を抑制するか検討する臨床研究を開始した。</p> <p>③ ブランディング事業の内容を発信するための特設Webサイトを開設した。さらに、Webサイトの改善のための予算を確保し、外部業者との交渉を計画した。</p> <p>④ 企業A社と企業B社に、リン制限食の献立・宅配弁当などの開発を目指す共同研究の提案を行ったが、いずれの企業にも受け入れてもらえなかった。</p>				

<p>④2017年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>研究活動は順調に進んでいるが、ブランディング戦略のうち、企業との連携が実現していない。</p>
	<p>(外部評価)</p> <p>老化を加速する因子に対する介入方法を開発するために、個人を対象として「治療的介入を行う臨床研究」の必要性が述べられていますが、介入を効果的に行うためには、それに加えて、「地域を対象として(地域ベース)予防的介入を行うための疫学研究」を合わせて行うことが重要と考えます。つまり、個人ならびに地域レベルで予防的介入と治療的介入を組み合わせることで実施できる方法論を開発し、その効果を検証した上で、自治医大の地域医療ネットワークを活用して普及することが、実践的かつ効果的な抗加齢医学の確立と社会への普及につながると考えます。自治医大の強みとして、地域医療ネットワークに加えて、公衆衛生分野(国や都道府県等の行政機関、大学や研究機関など)に従事する100名を超える自治医科大学の卒業生による公衆衛生ネットワークがすでに構築されています。本プロジェクトを通して、地域医療と公衆衛生の両者のネットワークが連携・協働して、研究とその成果の普及を進めることは、今後のわが国の保健医療システムの方向性についての政策提言にもつながることが期待されると考えます。</p>
<p>⑤2017年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成29年度においては、「私立学校施設整備費補助金」に申請した研究装置【ナノ粒子解析システム】および「私立大学等研究設備整備費等補助金」に申請した研究設備【形態・成分解析システム】が選定され、補助金を受け整備を行った。</p> <p>また、私立大学等経常費補助金(特別補助)に伴う補助金は、全学の研究活動に対して使用した。主な使用状況としては、研究推進に必要な試薬・実験動物等の物品購入や広報ホームページの作成などである。</p>